



こまくさ

平成29年
12月15(金)
No.36

《教育目標》 ~夢に向かって やさしく! かしく! たくましく!~

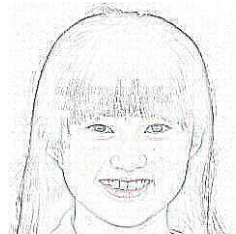
寒波が退き、今日は過ごしやすい日になりました。寒さが緩むと屋根や樹木などからの落雪に気をつけなければなりません。学級で指導していますが、どうぞご家庭でもご近所の「降雪時の危険な場所」を確認して話し合ってください。

今年の、義援金を送る学校が岩手県山田町立織笠小学校に決まりました。100名ちよつどの学校で、総合的な学習の時間にサケを題材にして勉強しているそうです。運営委員と福祉委員が計画を立て、準備をして各学級からメッセージを書いてもらっています。来週早々に送る予定です。完成したら詳しくお知らせします。



さて、今回は、読書感想文の続きと仙北市PR隊、体罰調査の結果についてお知らせします。

《台紙を作る委員》



あんずの木の下の下で読んで
五年 T・A

このお話は、体の不自由な子どもたちが通っている光明学校の太平洋戦争の時のことがよく分からなかったし、体の不自由な人たちは、逃げるのがとても難しいと思ったからです。

戦争の時代は、同じ日本人でも、このような体の不自由な人たちは、非国民(日本人ではない)と言われたり、目の見えない子どもたちは「穀潰し(ごくつぶし)く食料を食べる資格がない人」と言われたりして仲間はずれにされていたそうです。ここを読んだら、とても悲しくなりました。ですから、バツヤやどんぐりなど、食べられるものならなんでも食べたそうです。

戦争中は、今の時代とは全然違って、ちゃんとしたお米や野菜が食べられなくて、お腹が空いても食べずに、「日本のためなら欲しがらない」と我慢を続けていたそうです。今は、お米も野菜も食べられて、ゲームなどで遊べるし、日本で戦争がないので、戦争の時代は生きるのに一生懸命だったんだと思います。東京大空襲と言われている戦争では、たった一晚で亡くなった人の数は十万人以上、家を焼かれ住む場所を失った人の数は百万人以上にも及んだそうです。十万人以上の人たちが戦争で亡くしてしまったのです。他にも日本軍爆撃機で亡くなった人もいます。

私は、戦争はない方がいいと思いました。どうしてかという、たくさんの方の命、せっかく建てた家、小さな生き物も死んでしまつてとても悲しいからです。これからは、戦争がなく、とても平和な日本になってほしいです。戦争についてたくさん知ることができるので、まだ戦争について知らない人は、ぜひ読んでみてほしいです。



「チキン」を読んで
六年 H・S

最初に「チキン」という題を見たときは、チキンだからニワトリが出てくるお話だと思っていたのですが、読んでみると全然違うお話でした。そしてこう思いました。「チキン」に出てくる真中さんは、すごいかも。

真中さんは、一年間静岡の小学校で学校生活を送っていました。性格はどちらかというと悪い方で、思ったことを何でも言うという人でした。そして、弟のすい君も同じ学校の二年生です。二階の窓から体を出して座っている人を注意した真中さん、それがたまたま弟のすい君と同じ学年の子たちだったので、真中さんが注意した次の日から、毎日すつとすい君はその子たちからいじめを受けるようになったのです。

真中さんは、転校することになったのです。なぜかという、真中さんのお母さんは心臓

がよくなる、大阪の方の病院に入院することになり、真中さんとすい君とお父さんと三人で、大阪の方に行くことになりました。でも、真中さんは、自分がいるとまた、自分のせいです。すい君がいじめを受けることになってしまおうと思っただけで、すい君とは違う学校へ行くことと決心したのです。

この本を読んで、私がびっくりしたことが二つあります。

一つ目は、真中さんが転校した学校でも、前の学校と同じくいつも通り生気です。思ったことをいつでも言っていて、性格が悪く、仙道さんさん、久田さん、藤谷さんなどをトラブルに巻き込み、誰かに止められるということが多かったのです。

二つ目は、真中さんはいつもトラブルを起こして、休みの日でも怒られていたのですが、日曜日は、弟のすい君と二人でお母さんの所に行っていました。しかも、毎日欠かさず夜になっても手紙を書いていました。でも、手紙を書く暇もないくらいに用事ができてしまっただけで、そうしているうちに、お母さんは急に死んでしまいました。真中さんは、もう一度すい君をお母さんに会わせてあげたいと思っています。その面では、弟思いだと思っています。

私は、真中さんみたいに弟思いではないので、もう少し弟を大事にしたいと思いました。そして、真中さんみたいに一生懸命になれるように頑張ります。

仙北市のPR動画アップ

ホームページに仙北市のPR動画をアップしました。これは、4年生の総合的な学習の時間に行った仙北市PR隊の学習の一環として行いました。11月14日の公開研究会の前から取り組んでいたもので、自分たちが学習した「田沢湖地区」「角館地区」「西木地区」のPR、生保内小学校のPRから成り立っています。

出演は、I.さん、K.さん、S.さん、T.さん、H.さん、H.さんの6名です。子どもらしく楽しい内容になっています。パソコンはもちろん、スマートフォンでも見ることが出来ます。4年生の頑張り、どうぞご覧になってください。

また、現在6年生も学習したことをコマーシャルフィルムとして動画を作成しています。ドローンで撮影した動画などを使っています。完成は冬休み明けになると思います。楽しみにしてください。

体罰調査の結果

お陰様で、今回の調査でも児童からの訴えはありませんでした。ご家庭からの回答数は例年よりやや減っていますが（94%の回答率）、本校の場合、もし体罰等があれば、すぐに学校に連絡していただけていると思っています。回答がないのは、体罰がなかったことと考えています。調査へのご協力、大変ありがとうございました。

体罰については、様々なご意見があると思います。体罰の定義を書いた紙も渡して回答していただけていますが、定義のとらえ方等で結果も変わってきます。体罰を防止するためには、教師が子どもの権利を守って教育を進めており、子どもが、しかられた時なぜしかられたのかを理解していることが大切だと思います。また、子どもと教師、保護者と学校の信頼関係があることが体罰のない学校づくりに必要だと思っています。今後も体罰のない居心地のよい学校づくりを進めていきたいと思っています。不安なことがあれば、どうぞすぐに連絡をしてください。

なお、今回次のような嬉しい記述がありましたので紹介します。「自分の時代は体罰がまだあった。しかし、なぜたまたか理解していた。時代が変わってすぐ体罰になる事に、先生方は大変だと思っている。自分も子どもと向き合って、理解出来るよう、伝わるよう努力する。今後もよろしく願いたい。」「気になることは全然ない。学校が楽しいと言っているのだから、安心している。ありがとうございます。（同様2件）」の3件です。ありがとうございました。